

株式会社ケー・エフ・シー

2024年3月期 決算説明資料

2024年6月



2024年3月期 実績総括

■ 2024年3月期 決算

売上高 250.7億円(前期比10.8%増) 経常利益 17.2億円(前期比23.3%増)

- ・工事の進捗遅れ解消や大型元請物件の竣工、またトンネル掘削資材の受注増加により売上拡大
- ・人件費をはじめとした販管費の増加があったものの、売上高の増加の影響や収益性の向上により増収増益

■ 2025年3月期 業績予想

売上高 260億円(前期比3.7%増) 経常利益 14億円(前期比18.6%減)

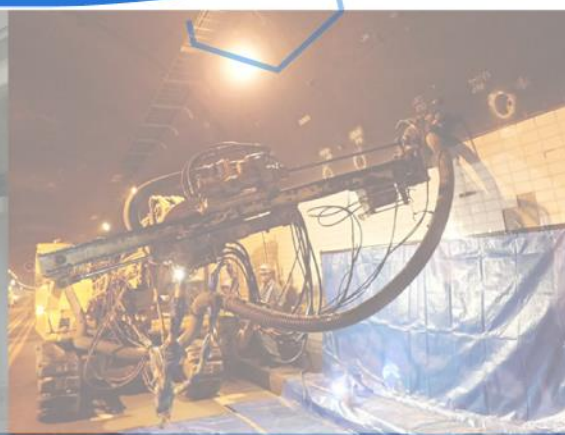
- ・受注残の堅調な推移、土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大により売上高は増加する見通し
- ・原材料価格や運送費の高騰、新中期経営計画の各施策への取り組み強化により減益の見通し

■ 新中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉

2027年3月期目標 売上高270億円 経常利益16億円

- ・前中計〈2022年3月期～2024年3月期〉の3カ年は、新設トンネルの減少、コロナ禍における工事の発注遅れや進捗遅れにより、業績は当初目標から大きく乖離する結果
- ・今年度より始まる新中計〈2025年3月期～2027年3月期〉は、次の成長ステージへの事業基盤を拡充する期間と位置付け、DX・人的資本経営・成長投資の拡大により資本効率向上に取り組むさらなる組織力強化と生産性向上を図りながら、中長期的な企業価値の向上を目指す

決算概要・業績予想



1. ケー・エフ・シーグループ概要

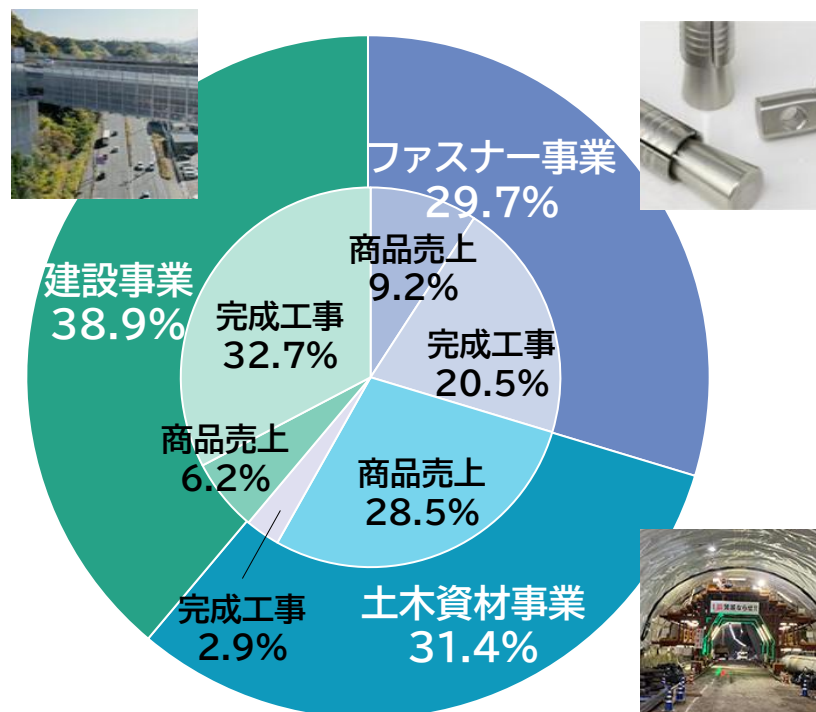
- 自社工事だから出来る現場視点での顧客ニーズを捉えた製品・技術開発による他社との差別化
- オーストリアからNATMを導入、独自技術に発展させたロックボルトや遮水シートなどトンネル掘削資材のトータル提案によりロックボルト販売全国シェア約60% (※自社調べ)
- 現場ニーズを掴み、技術提案力を元に独自工法を開発、元請受注力を高め、全国での自社施工体制を構築。新設工事から補修工事までをこなし、緊急工事対応で顧客の信頼を得る

売上構成 (連結:2024年3月期 250億円)

※セグメント間取引の調整をしております

建設事業

- トンネル内装及び耐火工事及び遮音壁設置工事等の環境工事の設計・施工
- 防護柵設置工事及び落下物防止工事等安全施設工事の設計・施工
- トンネル補強工事及びビル外壁補修工事等リフレッシュ工事の設計・施工
- トンネル内照明及び防災等設備工事並びに橋梁部設備関連工事の設計・施工



ファスナー事業

- 各種「あと施工アンカー」類の販売・施工
- 鋼材及び各種金物の製作・販売
- 耐震関連資材の販売
- 電動工具類及び付属ビットの販売
- 建築物等の耐震関連工事の設計・施工
- 道路及び鉄道橋脚等の耐震関連工事の設計・施工

土木資材事業

- ロックボルト等トンネル支保材料の製造・販売
- ドライモルタル等ロックボルト用定着材の販売
- トンネル用防水シート及び附属品並びに溶着機等施工機械の販売
- ウレタン注入剤等トンネル用岩盤固結剤及び注入機等施工機械の販売並びにレンタル
- 遮水シート、防水シートの輸入販売、設計、施工

2. 2024年3月期決算実績

①決算概要総括

業界環境

■ 公共建設投資額の堅調な推移やコロナ禍の終息傾向による工事進捗の遅れ解消など、良好な受注環境に移行しつつあるが、世界的な物価上昇や「建設業の2024年問題」をはじめとする業界の課題は依然として継続しており、リスクの内在する不透明な事業環境は継続

売上面

■ 各現場が順調に進捗(ファスナー)、補助工法の資材販売が増加(土木)、尼子山トンネルの応急復旧工事をはじめとする大型元請物件受注(建設)により増収

連結売上高 25,070百万円 ※セグメント間取引調整後の金額 前期比 +2,442百万円 +10.8%	ファスナー事業	7,731百万円	+653百万円 +9.2%	■ 受注環境が堅調に推移したことに加え、前期に受注した物件が順調に進捗 ■ 上下水道施設をはじめとした土木耐震補強工事の増加
	土木資材事業	8,196百万円	+1,417百万円 +20.9%	■ トンネル掘削補助工法の資材販売が東日本を中心に好調に推移 ■ 技術提案による特殊ロックボルトや独自技術を活用した防水シートの販売、補修工事も寄与
	建設事業	10,130百万円	+399百万円 +4.1%	■ 元請工事は緊急工事受注や受注済物件の進捗が順調に推移 ■ 発注見直しによる受注機会の損失

利益面

■ 独自工法の順調な推移(ファスナー)、販売価格の改定が進捗(土木)し、原材料価格の高騰および人件費の増加で減益(建設)ではあるが全体的に増益

連結経常利益 1,720百万円 前期比 +324百万円 +23.3%	ファスナー事業	721百万円	+132百万円 +22.4%	■ 独自工法(ハイブリッド耐震補強・土木耐震せん断補強(RMA))の順調な推移、また土木橋梁耐震工事でも前期並みに順調に受注したことにより利益改善
	土木資材事業	490百万円	+424百万円 +651.8%	■ 原材料価格の高騰を補う販売価格の改定が進捗 ■ 独自製品を中心とする技術提案資材の販売が好調
	建設事業	509百万円	△232百万円 △31.3%	■ 原材料価格、労務費の高騰 ■ 管理者不足による派遣社員の採用に係る原価増

2. 2024年3月期決算実績

②セグメント毎実績

ファスナー事業

- 官民建築耐震関係工事がコロナ禍からの脱却により顕著に発注され売上が増加
- 土木耐震補強工事も堅調に受注し増加(前期比21.5%増加)
- 販売は前期並み(前期比3.2%減少)

<主要施工実績>

- ・ 小和瀬発電所導水路改良工事
- ・ 西長沢調整池耐震補強工事
- ・ 県立茅ヶ崎高校本館改修及び耐震補強工事
- ・ 伊勢湾岸道飛島高架橋他1橋耐震補強工事
- ・ 高松自動車道 国分寺高架橋他5橋耐震補強工事
- ・ 沼田調整池耐震その他工事
- ・ 影原水源地調整池耐震補強工事

土木資材事業

- 全国的に新設トンネル発注物件は減少傾向
- トンネル掘削補助工法資材の受注拡大(前期比26.6%増加)
- 防水シートの全国シェアが向上(前年39.0%→43.2%)
- ロックボルト補修工事の受注増加(前期比32.6%増加)
- 重金属対策の新規商材が伸長(前期比127.6%増加)
- 鋼材等、原材料、運送費のコスト高騰は継続も価格転嫁進む

<主要納品実績>

- ・ 北海道新幹線
- ・ 岩手県 大石地区トンネル
- ・ 千葉県 圏央道芝山トンネル
- ・ 神奈川県 新東名高松トンネル
- ・ 和歌山県 法事トンネル補修
- ・ 広島県 鞆トンネル
- ・ 長崎県 西九州道松浦トンネル

建設事業

- 火害による緊急応急復旧工事の受注
- トンネル覆工補強工事をJVで受注
- 構造物補修工事、トンネル設備工事の受注
- 人件費上昇に伴う労務単価の上昇
- 原材料、運送費等仕入れコストの高騰

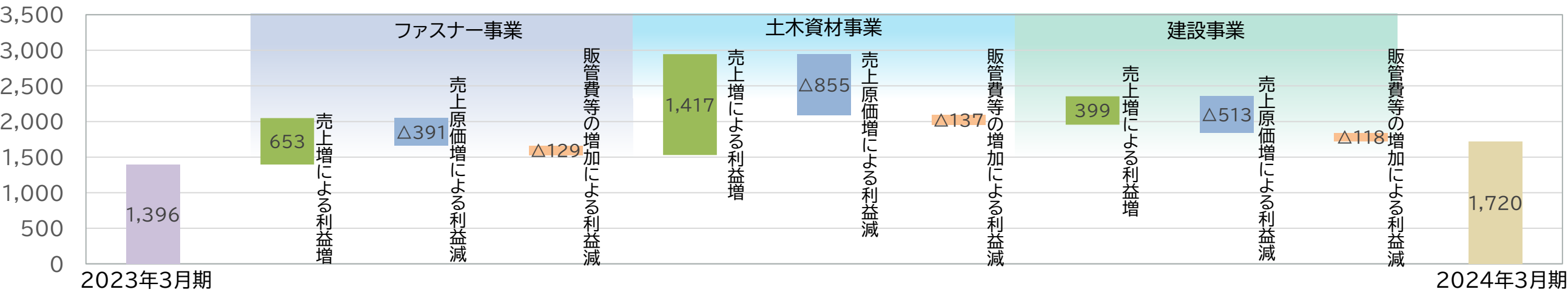
<主要施工実績>

- ・ 山陽自動車道 尼子山トンネル覆工背面応急復旧工事
- ・ 首都圏中央連絡自動車道 幸手西遮音壁工事
- ・ 令和4年度 中国自動車道(特定更新等)千代田高速道路事務所管内構造物補修工事
- ・ 令和4年度 中国自動車道 山口高速道路事務所管内(西地区)構造物補修工事
- ・ 中央自動車道 土岐IC～小牧東IC間コンクリート構造物補修工事
- ・ 一般国道122号蓮田岩槻BP並木工区道路改良工事

2. 2024年3月期決算実績

③経常利益増減要因分析

(単位:百万円)



ファスナー事業

- + 653 水処理施設商材の流通が好調に推移、土木耐震物件の発注が回復傾向
- △ 391 売上増に伴う原価の増加、原材料仕入価格の高騰による増加
- △ 129 人件費の増加、コロナ禍の終息傾向により、営業活動が活発化したことによる営業費の増加

土木資材事業

- +1417 補助工法の資材販売が好調、技術提案による特殊ロックボルトや独自技術を活用した防水シートの販売、ロックボルト補修工事も寄与
- △ 855 売上増に伴う原価の増加、原材料仕入価格の高騰による増加
- △ 137 人件費の増加、設備投資の増加

建設事業

- + 399 トンネル補修・補強工事や橋梁補修工事で大型物件を5件、環境対策工事で1件受注。また被災した尼子山トンネルの復旧に関わる応急復旧工事を受注
販売では北陸自動車道の設備工事に付随したフェイルセーフシステムの販売も寄与
- △ 513 原材料仕入価格や労務費単価の高騰による増加
- △ 118 人件費の増加

2. 2024年3月期決算実績

④貸借対照表（B/S）（連結）

（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期	増減額	コメント
流動資産	16,333	19,671	3,338	■ 有価証券の償還による増加
現金及び預金	3,189	4,459	1,269	
受取手形及び 完成工事未収入金等	6,620	9,825	3,204	■ 元請物件の順調な進捗による完成工事未収入金の増加
その他流動資産	6,523	5,386	△1,137	■ 有価証券の償還による減少
固定資産	9,857	9,947	89	
有形固定資産	4,916	4,871	△44	
無形固定資産	419	342	△77	
投資その他の資産	4,520	4,732	212	
資産合計	26,191	29,618	3,427	
負債合計	6,634	9,002	2,367	■ 元請物件が順調に進捗したことによる支払債務の増加
（借入金残高）	490	490	0	
純資産合計	19,556	20,616	1,059	
負債純資産合計	26,191	29,618	3,427	

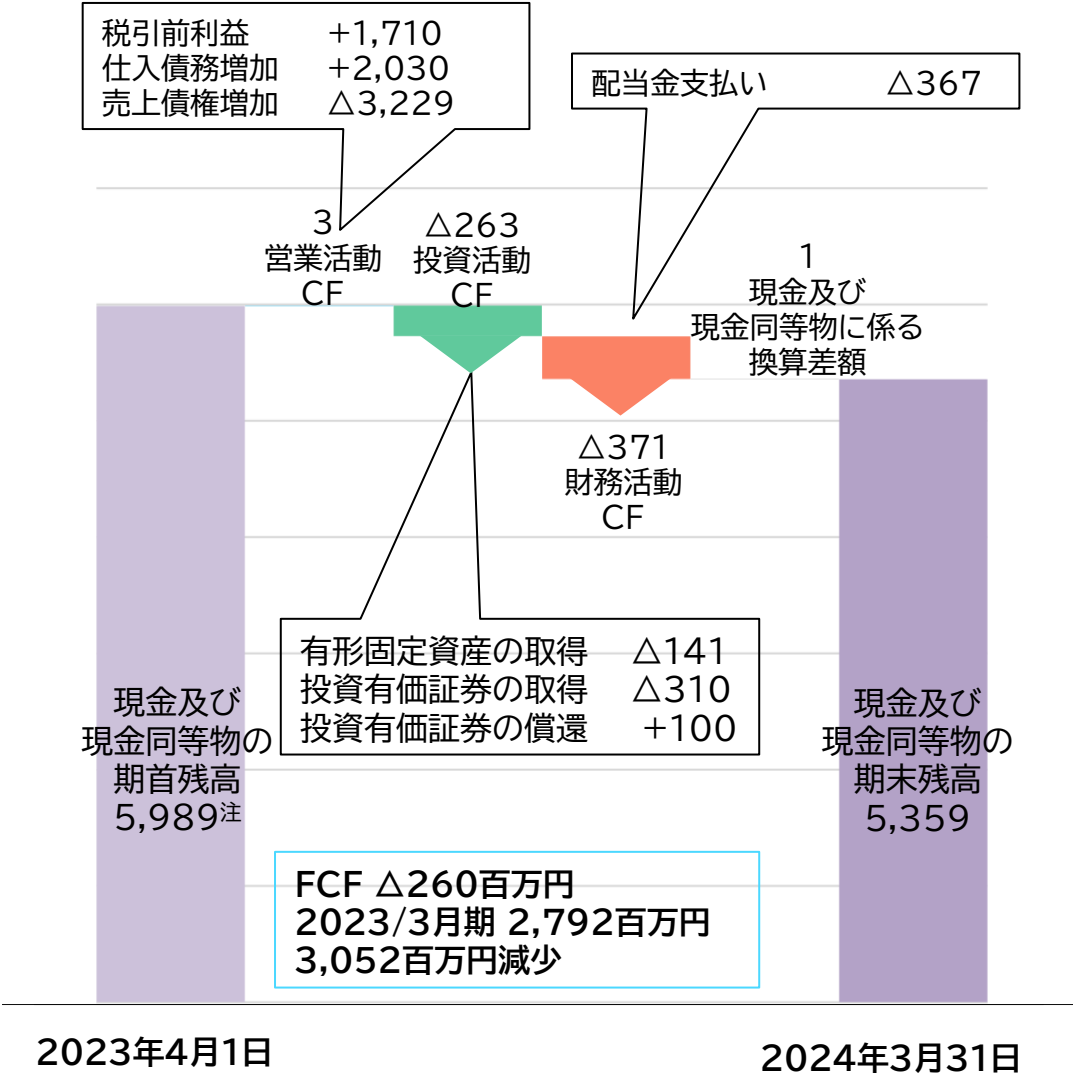
2. 2024年3月期決算実績

⑤キャッシュ・フロー計算書（連結）

(単位:百万円)

	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	3,750	3	△3,746
投資活動による キャッシュ・フロー	△958	△263	694
財務活動による キャッシュ・フロー	△520	△371	149
現金及び現金同等物に 係る換算差額	6	1	△4
現金及び現金同等物の 増減額	2,278	△630	△2,908
現金及び現金同等物の 期首残高	3,726	5,989	2,263
現金及び現金同等物の 期末残高	5,989 ^注	5,359	△630

注:連結範囲の変更に伴う差異△14百万円勘案後の数字



2. 2024年3月期決算実績

⑥受注の状況

(単位:百万円、%)

		期首繰越 工事高	期中受注 工事高	計	期中完成工事高			期末繰越工事高 手持工事高	期中 施工高
					官公庁	民間	合計		
2023年 3月期	環境工事	1,225	142	1,367	759	64	824	543	824
	リニューアル工事	2,156	5,683	7,839	4,022	187	4,210	3,629	4,210
	トンネル及びその他の 設備関連工事	2,230	1,654	3,885	2,607	110	2,717	1,167	2,717
	耐震関連工事	2,499	4,982	7,481	2,819	2,171	4,991	2,490	4,991
	その他の工事	36	270	306	62	225	287	18	287
	計	8,148	12,733	20,881	10,271	2,759	13,031	7,850	13,031
2024年 3月期	環境工事	543	1,345	1,889	1,523	12	1,536	352	1,536
	リニューアル工事	3,629	5,598	9,227	4,880	139	5,020	4,207	5,020
	トンネル及びその他の 設備関連工事	1,167	2,594	3,762	1,856	134	1,991	1,771	1,991
	耐震関連工事	2,490	6,255	8,746	3,014	2,598	5,613	3,132	5,613
	その他の工事	18	533	552	225	230	456	95	456
	計	7,850	16,327	24,177	11,501	3,115	14,617	9,559	14,617

3. 2025年3月期業績予想

①業績予想のポイント

売上面

- コロナ禍において生じた工事発注・進捗の遅れ解消、土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大、工事受注残の堅調な推移により増収

連結売上高 26,000百万円 前期比 +930百万円 +3.7%	ファスナー事業	8,800百万円	+1,068百万円 +13.8%	■ ニーズに対応する商品の提案営業の強化 ■ RMAの新規市場への拡大・拡販 ■ 人手不足・省力化対策など高付加価値商品の販売拡大
	土木資材事業	7,650百万円	△546百万円 △6.7%	■ 全国的に新設トンネル発注物件が減少 ■ 独自工法・資材を活かした補助工法の受注強化 ■ 技術提案商材・新規商材・トンネル補修工事の受注強化
	建設事業	9,550百万円	△580百万円 △5.7%	■ 工期長期化による管理者拘束により新規物件受注に制限 ■ 元請工事(構造物補修工事、遮音壁工事)、トンネル補修補強・設備工事等の受注強化

利益面

- 原材料価格や運搬費の高騰は継続、また「建設業の2024年問題」に対応すべく人件費が増加(共通)が見込まれ減収

連結経常利益 1,400百万円 前期比 △320百万円 △18.6%	ファスナー事業	670百万円	△51百万円 △7.2%	■ ニーズに対応する商品の提案営業の強化 ■ RMAの新規市場への拡大・拡販 ■ 設置既存アンカーに対する調査業務と改修方法の提案などソリューション販売の強化
	土木資材事業	300百万円	△190百万円 △38.7%	■ 原材料価格、運送コストの高騰 ■ 技術提案商材・新規商材による収益改善
	建設事業	430百万円	△79百万円 △15.6%	■ 受注競争の激化による工事採算悪化の懸念 ■ 原価の見直しによる適正な利益率への改善 ■ 補修工事現場設計変更による追加利益の確保

3. 2025年3月期業績予想

②セグメント毎業績予想ポイント

ファスナー事業

- 民間建築耐震工事の設計検討業務の増加
(前期実績9件→今期10件(2024年4月時点)、今後少額案件含めて増加傾向)
- 土木耐震補強工事の堅調な発注(受注は前期比5%増加、今後も増加傾向は継続)
- 価格改定による適正価格の変更
- 独自工法の順調な受注と進捗(前期比31%増加を想定)
- 人手不足問題、省力化に対するICT技術への取組
…インフラ設備における点検業務の省力化に注力



土木資材事業

- 原材料価格、運送コスト高騰(前期比3%増加)が見込まれるが、適正な価格転嫁や購買活動の強化により、コスト高への対応を進める
- 多発する自然災害復旧等による発注遅れの懸念
- 独自工法・資材を活かした補助工法の受注強化
- 技術提案商材・新規商材の受注強化
- トンネル補修工事、環境対策、重金属対策の受注強化

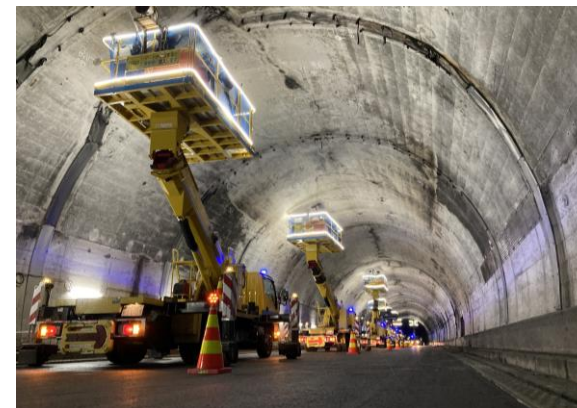


建設事業

- 全国的なインフラ補修・補強工事の発注は継続
- 元請受注比率改善のため企業価値の向上を最優先
- 業界全体の施工管理者不足に対応し、計画的かつ積極的な社員採用(目標3名)・社員教育・資格取得支援(資格取得目標5名)を推進
- 原材料価格等コスト、労務単価の高騰

(連結子会社アールシーアイ)

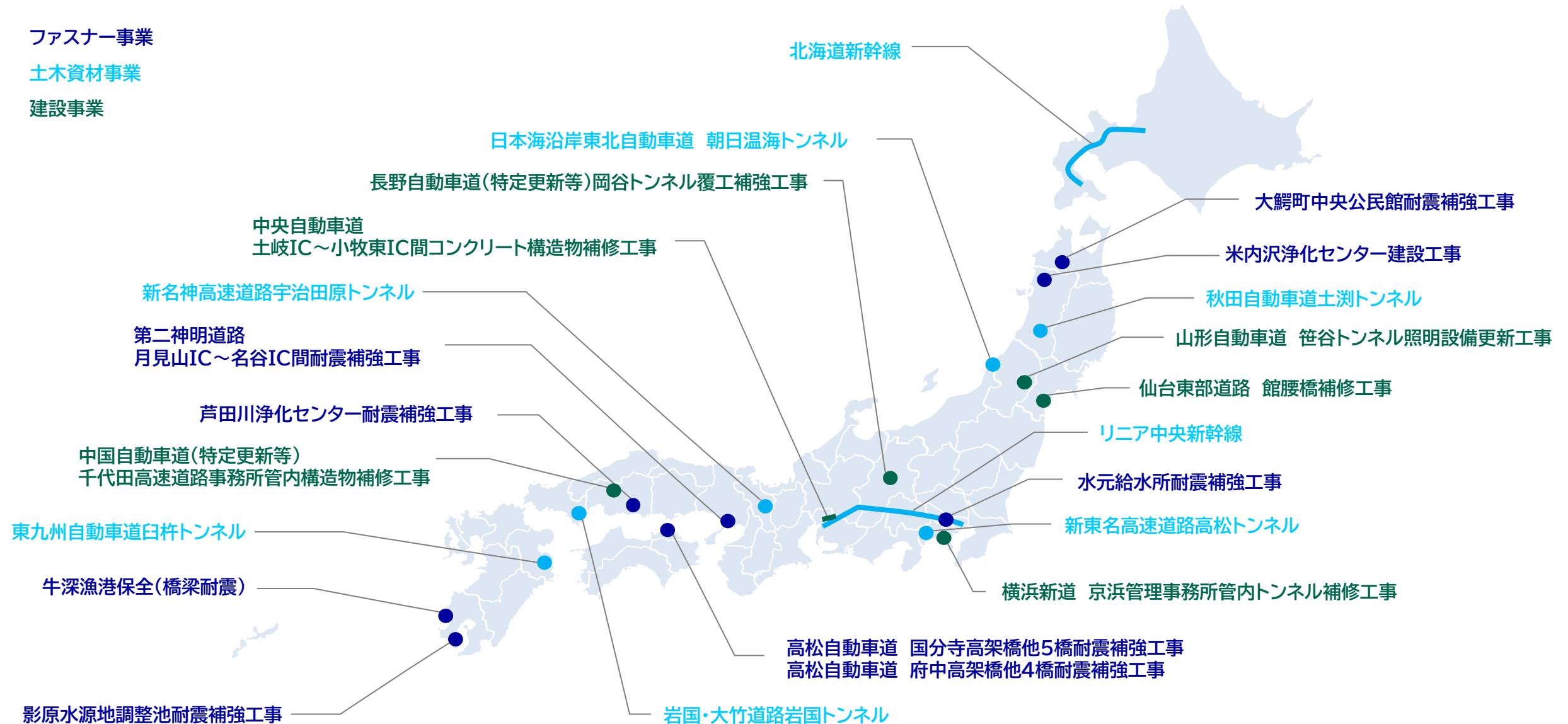
- 西日本エリアを中心に鉄道橋脚一面耐震補強工事の需要拡大
- 道路橋脚一面耐震補強工事の受注強化



3. 2025年3月期業績予想

③主要物件の状況

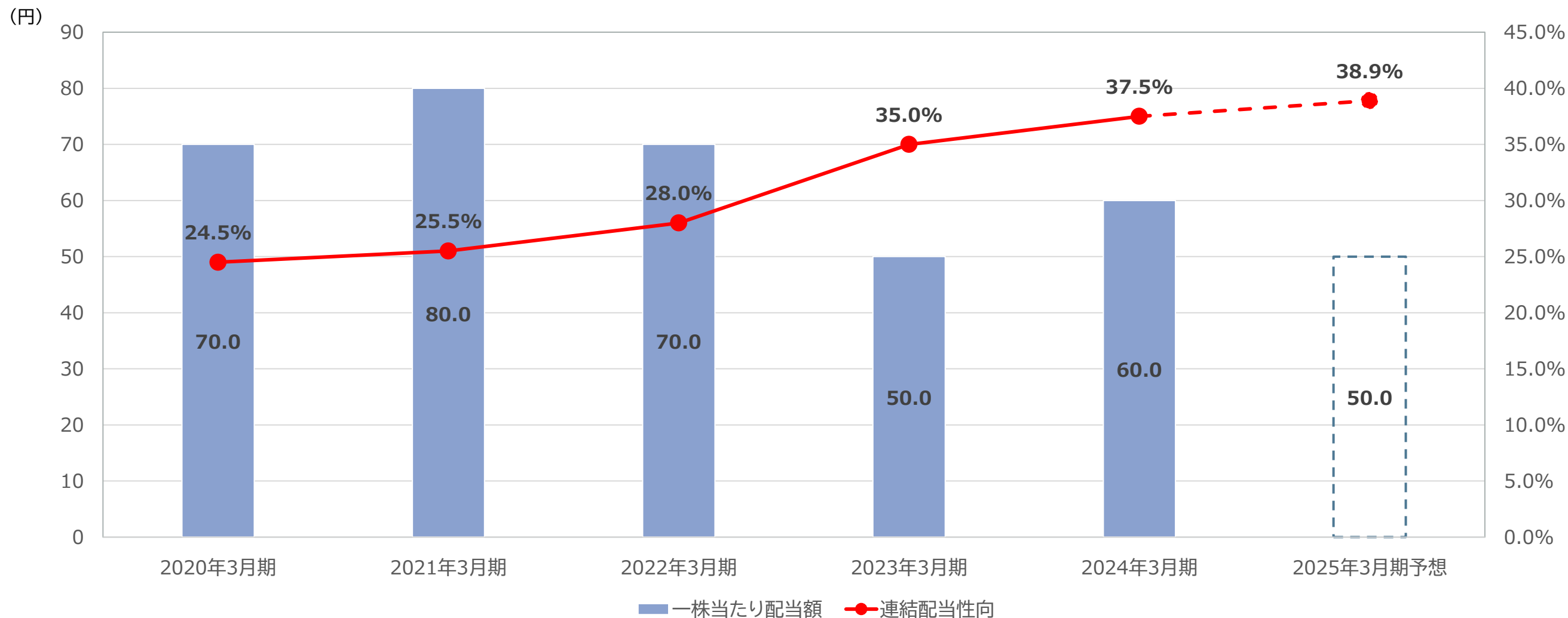
- ファスナー事業
- 土木資材事業
- 建設事業



4.株主還元・配当方針

配当推移

- 強固な財務基盤を維持しつつ、安定的かつ継続的な利益還元を重視することを基本とし、株主還元の充実を目指します。
- 中期的目標は、連結配当性向40.0%とします。



技術の力で人と未来を支える

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ケー・エフ・シー

電話:03-6402-8250/e-mail:kfc.ir@kfc-net.co.jp
(担当:佐竹)

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。